

## 2023年度 公立大学法人大阪第3回役員会議事要旨

日時：2023年6月14日（水）9時30分～10時35分

場所：阿倍野キャンパス医学部学舎1階応接室

構成員：福島理事長、辰巳砂副理事長、酒井理事、東山理事、櫻木理事、高橋理事、  
中村理事、宮部理事、帯野理事、生駒理事(オンライン)、藤沢理事(欠席)

陪席者：西田監事、白井監事、市橋事務局長、大久保事務局次長、石井事務局次長、  
船野学長室長、千田総務部長、柴山企画部長(オンライン)、富宅医学部・附属病院事務局長代理兼事務局事務部長、中井総務課長

### 【審議事項】

特になし

### 【報告事項】

#### 1 ダイバーシティ（女性活躍支援・国際化）について

担当理事より、ダイバーシティ（女性活躍支援・国際化）について報告がなされた。

<主な意見等>

（女性活躍支援について）

- ・女性講師、助教比率が他大学に比べて低いため、改善が必要である。P.1の「積極的に状況を変えよう」という意思が見えない」の文言については、現状の横ばいで推移している事実を述べるのみでよい。
- ・女性教職員の数値目標について、毎年度の目標人数を決め、実績と見比べて検証する方式にしてはどうか。
- ・女性教職員の数値目標の設定について、毎年度の目標人数を計画するよりは、5年ごとの目標を設定し、その目標に向けての積極的な姿勢をPRするほうが重要ではないか。
- ・短期的に急増しないので、5年、10年の間隔で人数を増加させるための検討が重要である。短期的には外国人教員は女性教員を積極的に雇用し、中長期的には女子学生の割合を増加させることが5年、10年後の女性教員の増員、或いは大学院への進学率を高めることへ繋がるので、具体的な施策を他部署とも連携して実施いただきたい。
- ・女性教職員比率の施策に伴う関連の予算、財源については、国からの補助金申請が採択されない場合であっても、重要な取り組みとして、法人として措置していきたい。
- ・女性トイレの整備などの施策は、法人大学として女性の過ごしやすく働きやすい環境への配慮を実施していることを示すことができる。

（国際化について）

- ・国際化に関して、他大学と比較すると留学生の受け入れ、海外留学の比率が低い。OBからの寄付だけに頼らず、継続的な予算措置を検討いただきたい。
- ・大学院生の海外派遣については、国のフェローシップ事業等で特に博士課程の学生に対する支援が厚くなっているので、大学でも必要な予算を措置していきたい。
- ・海外からの研究者に関して、短期の招聘については重点的な予算措置を検討しており、学長裁量の人事枠も活用しながら、短期で多くの外国人教員を雇用したい。それに併せ、支援体制に必要な職員（専門職員含む）の配置についても今後検討したい。

- ・1ヶ月以内の短期留学より、長期留学に注力すべきではないか。
- ・短期留学の効果を発揮するためには、事前、事後の教育を充実させることが必要である。短期留学は数値を算出する際にも重要となる。留学生を呼び込むためには、日本文化等の特色のあるプログラムを組み込むことも重要である。特色あるプログラムは、競争的資金を確保する際にも優位に動く。
- ・留学時の提携先など国際に係る情報の一元化が必須である。
- ・現状の国際戦略センターにおいて全学の国際化の管轄に関する様々なマネジメントを実施して一括管理をしているが、今後強化していきたい。

## 2 都市シンクタンク機能について

担当理事より、都市シンクタンク機能について報告がなされた。

<主な意見等>

- ・他の主要大学にはない大阪公立大学ならではの取り組みであり政策提言機能に期待する。民間シンクタンクのように、業務委託を受けて資金を獲得することも視野に入れてはどうか。
- ・食の安全や感染症等をテーマとする「安全保障」「持続可能な社会づくり」という観点も重要である。
- ・関連する研究分野の各項目に対応する担当教員をデータベース化することで、行政からの相談や産業界からの共同研究の依頼等が入りやすく、より取り組みが進む。

## 3 2023年度入試の結果について

担当理事より、2023年度入試の結果について報告がなされた。

<主な意見等>

- ・理学部、工学部等の理系学部において、女子学生の割合を高めるための施策をアピールしていただきたい。

## 【その他事項】

特になし

## 【備考】

オンライン会議システムを併用した役員会は、適時的確な意見表明が互いにできる状態であることを確認しており、終始異状なく議題の審議等を終了した。

以 上